

平成27年度 部局自己評価報告書 (29:学際科学フロンティア研究所)

Ⅲ 部局別評価指標(取組分)

※ 評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容

※ 字数の上限:(1)～(2)合わせて7,000字以内

(1)全学の第2期中期目標・中期計画への貢献及び部局の第2期中期目標・中期計画の達成に向けた特色ある取組等の進捗状況・成果

1. 先端的学際研究の推進と学内学際研究発掘

平成26年度は、本所において先端的学際科学研究を推進する特別推進研究(所内公募)1件、学際研究を推進するための学際研究支援プログラム研究3件、挑戦的な萌芽的研究を学内から発掘するための領域創成研究8件(いずれも学内公募)が実施された。また新領域創成研究部若手教員の学際研究には研究費や海外渡航の支援を行った。これらの成果として173報(内、若手教員は128報)の論文を発表した。

国際交流の視点からは、国際会議への出席が85件(内13件が招待講演)、共同研究の実施のための海外渡航は2件であった。(なお本数字には、Ⅱ-1(1)で記述した研究所独自の若手研究者(教員)の海外共同研究2件および研究集会派遣支援分は4件が含まれる。)

2. 若手研究者の育成支援(尚志プログラム)

国際公募によって平成26年度にあらたに准教授1名と助教15名を採用した。平成27年3月末での新領域創成研究部若手教員は合計で准教授2名、助教34名である。上述したように、これらの若手教員には研究費、研究スペース、海外派遣等の研究支援を行っている。平成26年度に新領域創成研究部准教授が学内他部局教授に昇任した他、助教3名がそれぞれ関西学院大学助教、中国河海大学教授、韓国圓光大学助教(いずれも任期無しポジション)に転出した。

新領域創成研究部若手教員1名は学内公募による領域創成研究に採択され、別途支援している。

また北海道大学、名古屋大学と共同で実施している「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業ー連携型博士研究人材総合育成システムの構築」の育成対象者5名を採択し、3大学連携の自立的かつ国際的に活躍しうる人材育成を開始した。

国際高等研究教育院の博士・修士研究教育院生と上記の若手教員の連携によるセミナー、研究会、コロキウムなどの活動(養賢プロジェクト)は、20件であった。

3. 若手研究者の国際舞台進出支援

新領域創成研究部所属若手教員の平成26年度の国際会議への発表が44件(内、6件は招待講演)、共同研究のための海外渡航が2件であった。また、2名を米国スタンフォード大学長期留学(共同研究)に派遣した。(Ⅱ(1)に記載)

4. 異分野融合・学際分野における国際的頭脳循環のネットワークとハブの形成

Ⅱ-1(3)でフランス・リヨンの大学等との共同研究や教育プログラムに関係したELyT Labのワークショップの取り組みを記述。

(2)「部局ビジョン」の重点戦略・展開施策及びミッションの再定義(強み・特色・社会的役割)の実現に向けた取組等の進捗状況・成果

「(1) 全学の第2期中期目標・中期計画への貢献及び部局の第2期中期目標・中期計画の達成に向けた特色ある取組等の進捗状況・成果」で説明済み。